

平成 22 年度 第 1 回三条市食育推進及び農業振興審議会 会議録

- 1 日 時 平成 22 年 5 月 27 日 (木) 午後 1 時 20 分～3 時 05 分
- 2 会 場 市役所三条庁舎 2 階 大会議室南側
- 3 出席委員 姉齒暁 上村旭 皆川邦子 野崎文夫 外山迪子 高野万里子 樋口洋平
阿部僚一(代理：嶋田成一) 佐藤幸治 五十嵐大光 小林律子 小林武良
- 4 欠席委員 西光明 長岡信治 星野正義
- 5 説明のための出席者
(事務局) 木村経済部長 波多野健康づくり課長 板垣農林課課長補佐
田村食育推進室長 大泉技師 金子技師
- 6 報道機関 三条新聞社

7 議 題

- (1) 三条農業活性化プランの進捗状況について
- (2) 三条市食育推進行動計画と三条市食育推進計画の進捗状況について
- (3) 第 2 次三条市食育推進計画策定について
- (4) その他

8 委嘱状の交付

(食育推進室長)

前任者でありました、前にいがた南蒲農業協同組合営農経済部長 片山和英委員が退職されたため、三条市食育の推進と農業の振興に関する条例第 19 条第 3 項に基づき、後任のいがた南蒲農業協同組合営農経済部長 五十嵐大光様に残任期間を委嘱いたします。

(経済部長から五十嵐様へ委嘱状交付)

9 経済部長あいさつ

本日は、平成 22 年度 第 1 回三条市食育推進及び農業振興審議会の開催に当たり、ご多用のところご出席くださりまして誠にありがとうございます。今ほど、委嘱状をお渡しさせていただきました。改めまして、どうぞよろしくお願い申し上げます。今年度の審議会では、大きく 2 つのことについて審議いただきたいと考えております。

1つ目は食育推進と農業振興に関する具体的な取組や進捗状況について審議いただき、よりよい取組とするためのご意見をいただくことです。2つ目は第2次三条市食育推進計画策定のためのご意見をいただくことです。昨年度の審議会でもお伝えしてまいりましたとおり、現在の三条市食育推進計画が今年度で終了となりますので、第2次計画策定に向けてワーキング会議を立上げ素案の検討に入りました。本日の議題にもありませんが、計画策定スケジュールと骨子案について皆様にご報告させていただきます。

経済部では、今年度は中心市街地の活性化について取り組む計画です。現在、街中で食品スーパーが少なくなっていることを受け、コンパクトストアを商店街の皆さんと一緒に作り、賑わいを出すためのイベントを仕掛けていこうと考えています。そこに食育が絡んでくると非常に面白い取組が出来ると思います。また、町中にレストランを企業化したい人のために、コミュニティレストランを実験的に行う構想があります。例えば、食育弁当なるものを作って話題づくりをし、町中を活性化する案も出ています。ぜひこの審議会においても楽しいアイデアを出していただけると、経済部としてはありがたいと思いますのでよろしくお願いいたします。今後も食育の推進によって市民が健康になり、農業が発展するよう皆様からのご尽力を賜りますようお願い申し上げます。開会のごあいさつとさせていただきます。

10 審議記録

(1) 農業活性化プラン進捗状況について

～資料1について事務局（農林課課長補佐）説明～

質疑応答

【外山委員】荒川区、横浜市の子どもたちとの交流と農産物の販路拡大は具体的にどのようなつながったのか？

【農林課課長補佐】去年の秋に横浜市と荒川区の小学生とその父兄が来条した。横浜の子どもたちは尾崎地区、荒川子供たちは北五百川地区で農業体験をした。交流を通じて、おいしい米に非常に感心され、ぜひまた食べてみたいという感想が聞かれた。今年もまた春先に子供たちがバケツに三条産の稲を植える体験をしている。そういった交流を通して三条市の米を食べる日というのを向こうでも設定してくれている。明日28日は荒川区の給食で三条産米の日となっている。

【高野委員】荒川区、横浜市との交流が始まったきっかけは何か。

【農林課課長補佐】最初は市長同士のつながりがあった。荒川区に関しては、荒川の小学生がブナの木を植えるということで7～8年前から交流があった。その関係で荒川区の教育委員会とやりとりをしており、三条産米の使用を検討してもらえた。

【経済部長】先日の市長定例会見でもありましたが、荒川区では米飯給食週3回実施しており、明日から10月の新米が出るまでは三条市の米を最低週1回、給食に導入していただくことは決まりましたので、今後量的に多く買ってもらえそうな状況にある。

【小林(武)委員】荒川区に三条産の米を持っていくのであれば、炊くときに千年悠水で炊いてはいかがか。荒川の水でなく、千年悠水で炊いてみて試食してから反応を聞いてみると三条市の活性化に向けて良いかと思う。

【経済部長】荒川区の小学校の校長とは水の話をしてきた。コストの問題もあるが、試食用に千年悠水を送ることはできるかと思う。

【樋口委員】市内に食品加工業者が 39 社あるが、市民にはあまり知られていない。ぜひ場所を貸していただいて、市民に地元の食品を PR したいと考えている。10 月 16、17 日に開催予定。ちょうど秋口の開催なので、農家から野菜や果物を提供してもらい、市民の方と一緒に周知していくフェスタをやりたい案が出ている。商工会議所の食品部会の中での話だが、できたら食育推進の関係からも協力いただきたい。

【食育推進室長】商工会議所を通じて三条まんま塾加入の案内をさせていただき、いくつかの企業に加入いただいた。農家、市民、医療関係、飲食関係など 230 名程から入会いただいている。樋口委員の話はその一連の活動の中に入ると効果がでるのではないかと思う。今ほどの話は持ち帰って、一緒に取り組んで行けるよう検討したい。

【樋口委員】6 月頃には話を詰めたいと思っているので、できるだけ早いうちに計画を作りたい。

【健康づくり課長】三条まんま塾という連携会議ができ、市民が実施主体の団体で、三条市では事務局をしている。樋口委員からの話については、三条まんま塾の趣旨に沿った中で協力していけるかと思う。市の食育としてもできる限り協力をしていきたいと思う。

～議題 1 について了承～

(2) 三条市食育推進行動計画と三条市食育推進計画の進捗状況について

～資料 2・3 について事務局(大泉技師)説明～

質疑応答

【小林(律)委員】子どもが作る弁当の日は現在、実施されているのか。

【食育推進室長】担当が教育委員会の学校教育課となっている。24 の小学校が対象。4 月から計画に入っていると思う。動き出すのは 1 学期中旬からで、子どもたちが作り始めるのは秋からと聞いている。

【小林(律)委員】子どもが弁当づくりを全部行うということで、一方的な計画というイメージ。周りの保護者としては、朝忙しいのに、どうやって作るのかという言葉が聞かれている。火を使った経験のない子どももおり、保護者は戸惑っている。平日でなく、休日などに取り組めたらと思う。

【健康づくり課長】先ほど室長が申し上げたとおり、子どもが作る弁当の日は教育委員会が担当している。健康づくり課では、資料No.2(9)について、しみん食育と農業のつ

どい第二弾で竹下先生をお招きして「子どもが作る弁当の日」をテーマに講演会を行った。講演の中では経験がない、親の負担が多いなど様々な課題についても触れられた。一方でそこに生まれるメリットというものも大きく強調された。それを受けて教育委員会でも竹下先生の講演会を実施し、校長先生方も出席されたと思う。そういったプロセスを受け、いろいろなご意見、課題を踏まえた中で、各学校でどのようなやり方をするか、学校単位で実施方法については検討いただいていると聞いている。本日出たご意見についても教育委員会に伝えたい。

【小林(武)委員】 子どもが作る弁当の日のことで父兄からいろいろと非難があったことだが、教育委員会では教育長をはじめ子供に作らせる、作る方法を覚えてもらいたいという趣旨があったようだ。「早寝、早起き、朝ごはん」というキャッチフレーズで食育をすすめているようだが、親が忙しく遅く起きてごはんを作る時間がなく、コンビニで買って来たものなどを食べさせるということは、子どもの将来のためによくない。教育委員会では子どもの将来を考え弁当の日の実施に踏み切ったようだが、私としては親からは非難が出ようとも、子どもたちが早起きし、朝ごはんを食べて学校に行くというリズムに少しずつ慣れていけばよいと思う。教育委員会で担当されるということではあるが、食育の方からもアドバイスをしてほしい。子供が作る弁当の日というのは大事なこと。非難は最初だけだとは思っているので続けて欲しいと思う。

【健康づくり課長】 言葉の中で「非難」という言葉が聞かれたが、私は「非難」よりも「不安」ではないかと思う。まだ何もやってみた事がない、どういったメリットがあるのか、どういった方法でやるか分からない、それをそれぞれの学校で保護者に伝えながら、理解と協力を得た中で子供たちの生きる力を育てていくことが今回の目的だと思う。また、田村室長が教育委員会から兼務辞令を受けている。健康づくり課の職員であると共に教育委員会の職員でもあるので、食育の観点からも手伝いが出来る。不安なく、子供たちが成長できるより良い方法を模索しながら実現していきたい。竹下先生が実施した手法だけでなく、三条にあった手法も考えられるかと思う。個人的な意見ではあるが、それを皆さんと作り上げながら実現してけたらと思う。このことについて教育委員会にも伝えたい。

【外山委員】 資料 2(8)地産地消のAの項目の中で三条産品の利用 30 品目とあるがそれについてもう少し詳しく説明していただきたい。学校給食において地産地消の割合はどのくらいなのか。全体で 30%位という目標があるようだが今後もっと広げていけるのか。

【食育推進室長】 30 品目というのは三条の農産物を使っている数。これは給食で使っている食品数は野菜や果樹、米、味噌などを入れて 70 品目位あるうちの 30 品目位。県の方で以前は重量で数字を求めている時分があり、その後食品数を集計する形になったが、現在はなくなり、全国的に見る数字がなくなった。そこで三条市では、給食使用食材中にて市内で生産可能な食材を取り上げ、その中で実際に使用した食材の割

合をカロリーベースで算出する方法をとっている。三条で作っているものを旬の時期に積極的に使用した結果、21年度は92%であった。国、県でこのような数字を求めているので、こちらでも細かな数字を出していないのが現状。

【姉齒会長】昔は市町村別、品目別で出していた。非常に分かりやすかったが、今はもうなくなったのか。

【食育推進室長】おそらく学校栄養士が仕事をする時に、栄養管理、衛生管理や食指導などがあるが、地産地消率を出すことが大変な事務量になるので、その意味で減ったのではないか。

【姉齒会長】カロリーベースで三条産が92%ということはかなり給食に定着しているということがうかがえる。その他の品目についてはだいたい県内のものになるのか。

【食育推進室長】市内、県内、国内ということで国外のものは、よほどのことがなければ使わない。

【外山委員】三条はすごく熱心で良い状況だと思うが、他市町村はどうか。

【食育推進室長】以前の数字で県内において市レベルで高かったのは豊栄市。その時は米を除いた野菜や果樹の農産物の割合が重量ベースで出ており、豊栄市は40%を超えていた。三条市は30%位で2番目位に高い数字であった。三条市では特に栄地区が高かった。下田地区は自家で消費する分が多く、販売分はほとんど作らないため学校給食への使用率が低かった。

【小林(律)委員】三条の地産地消はすごいことだと思うので、もっと一般の人に知ってもらうことで、さらに進んでいくのではないか。PRはどのようにしているのか。

【食育推進室長】広報さんじょうで特集を組むなど、今年度も広報していきたいと思っている。食育メールがホームページからしか見られないので、皆さまのお手元に届けられていないが、その中で地産地消や学校のこと話題に取り上げたりはしている。広報にもまた入れていきたい。また、給食だよりの中にも載せているので、保護者は目にしていると思う。

【姉齒会長】PRは新潟県全域において不得意とするところ。“考えられないくらい自給率の高い学校給食をやっている”ことについて横断幕などを様々な場所に掲げて関心をもたせると良い。インターネット上の情報は限られた人しか見ない。しかも、官庁関係のホームページはよっぽどでない一般人は見ないので、アナログでPRするべき。この地産地消率はすごいことだと思う。

【健康づくり課長】市民へのPRと共に、少し前に朝日新聞の社説で直接三条市の給食を取り上げていただいた。また、幕内秀夫さんの「変な給食」という書籍の中で、いろんな学校の具体的な給食が出ているが、良い給食という例で三条市が取り上げられている。先週発刊されたビックコミックというマンガ週刊誌の中でも取り上げていただき、外からいろんな形で三条の給食について評価が寄せられていることが、市民へのPRにつながっていくと思う。戦略的な広報をしていくために、ターゲットや手法

について検討していきたい。

【皆川委員】食育メールですが、内容的には大変見やすくいいので、学校関係者だけでなく、一般家庭でも見られることが大事ではないか。一般家庭にも配布をお願いしたい。回覧板の活用で各家庭にまわせないのか。前回もお願いしたが、難しいものか。

【食育推進室長】皆川委員のご意見は前からいただいており、やりたいと思っている。広報に挟んで各家庭に配布する方法も考えたが、非常に印刷する経費の問題があり難しかった。回覧板については、全市一様に回覧板がある訳ではなく、ばらつきがあるので難しい。多くの方に見ていただくのは大切なことなので検討していきたい。

【小林(武)委員】新潟県はPRが下手ということは私も感じているが、県央工業に食育の授業に行かれているのは非常にいいことだと思っている。高校生、ましてや県央工業になると野球で甲子園まで行ったこともあり、方々から三条市以外の生徒が来る。その生徒にも県央工業は野球もさることながら食育も進んでいるとPR出来る。他の高校にもできたら、良いPRになるのではないか。

【食育推進室長】県央工業は今年度も継続で依頼をいただいているので対応していきたい。私たちも全市の高校生に取り組みたいとは思っているが、今年の計画では子供たちが自主的に考える講座をしたいということで夏休みに計画している。その講座は他市から来ている生徒も含めて対象と考えている。多くの方を迎えることはできないが、そういった間口から入っていくことができたらと思っている。

【皆川委員】資料3の年代別評価指標の壮年・高齢期のところで、糖代謝異常、貧血者の割合が年々上がっていている。今年度の目標値より非常に高い状態。どの年代が増えている、どのような原因が考えられるのか分かれば教えて欲しい。

【大泉技師】年代別については出していなかったもので、今後調査して提示したい。原因については、これまでの健診の説明会などの中でバランス食について説明してきたのだが、さらに個別での指導が必要だと思っている。

【皆川委員】どの年代で増えているかを見ていかないと、それに対する対策が考えられないので目標には近づけないと思うが、国民栄養調査や県民栄養調査を見るとやはり高齢期が増えてきている。それからすると、やはり高齢期における取り組みが重要になってくると思うが、三条市の取り組みをみると特に高齢者のところが資料2(7)では3行で終わっている。この辺りを手堅く入れていかないと、なかなか目標値まで行かないかを感じる。市としてはどう考えているのか。

【食育推進室長】常々ご指摘いただいている部分かと思う。どうしても子どもたちの方に意識がいつている。高齢期までなかなか手が届いていないが、力を分散して取り組んでいきたい。この部分については、食育推進室は健康づくり課に所属しており、健診係、保健指導係、スポーツ振興係と一緒に課として力を合わせていく部分かと思うので、今後は特定保健指導等に力を入れていきたい。

【皆川委員】事後指導だけでなく、できれば一般的な研修会や講習会など地域の老人会

とタイアップしていけばもう少し隅々まで入れるのではないかと。

【外山委員】3～4年前くらいかと思うが、社協と一緒に、職員と食生活改善推進委員が本成寺地区中心で集会場に出向いて地域住民に痴呆予防の講話や試食提供をする活動をしていた。本当に小さな地区の集会場だったが、身近なところに住民が集まる良い活動だと思う。今はなかなか声がかからないので出来ないが、資料2(7)ウのところでも一、三の男の料理教室以外にも、社協からの依頼でシルバーエンジョイライフという男性対象の料理教室を毎月1回、年合計10回程実施している。今年は30名の参加がある。とても難儀な思いをしてやっているがここには載っていない。私たちは専門的なことは出来ないが、啓発活動として続けて行けたらいいと思っている。

【姉齒会長】現状をみんなで共有するための委員会でもあるので、ここで出たことをお互いに持ち帰って考えることが大切かと思う。今の高齢期のところで一つ質問があるのだが、資料2(7)イの在宅給食サービス事業支援の継続実施希望者なしとはどのようなことか。

【食育推進室長】在宅給食サービス利用者へはおたよりを弁当と一緒に届けているが、そこに電話などの栄養相談を受け付ける旨を掲載している。その利用者がなかったということ。

【姉齒会長】三条でも大型店舗が増えてきて、東京と同じようにフードデザートという食の砂漠化が進んできている現状があるかと思う。一人暮らし高齢者などは買い物に行こうと思っても決まったところでしか買えない状況で食生活を営んでいかななくてはならない。行政単位で取り組まなくてはいけない。そのあたりが進捗状況の中ではないかともしがたいところかと思う。食育推進の中で評価指標を出してもらっているが、進捗状況の場合には、目標値まで何パーセント達成しているのかの達成値を示したほうがわかりやすい。小学校や保育所などはよいが、高齢期の食生活の問題となるとそのあたりを整理する必要があるかと思う。

【健康づくり課長】市全体としてスマートウェルネスシティ構想があり、施政方針として各部への指示事項となっている。高齢化ということは必須の状況となっている。健康づくり課が健康づくりを行うのではなく、まちづくり全体として考え実践していく構想。筑波大学の久野先生からのアドバイスを受けながら健康運動教室を実施しているが、その久野先生を中心に関係市町村と会議を行っている。先日も会議があり、課題共有などを行っている。狭義での健康施策は健診・食育・介護予防などの部分、広義での健康施策はハード部分。つまり高齢者が買い物をしようとしても、交通手段がない中でデマンドバスを活用することなどをトータルに考え、高齢化社会に対応できるまちづくりをしようという発想が今年度から始まっている。食やまちづくりそのものに繋がるよう、高齢化となっても住みよい町にするよう取り組んでいく予定。

【外山委員】資料3の平成22年度の目標値について、21年度に達成しているのに22年度目標を変えないのはなぜか。

【食育推進室長】22年度の目標値は、計画策定時の18年度に決定したもの。当初から目標は変えずに計画を進めてきた。目標達成している項目については、さらによい数字になるように取り組んでいく予定。

～議題2について了承～

- (3) 第2次三条市食育推進計画策定について
～資料4について事務局(大泉技師)説明～

～議題3について了承～

- (4) その他

【小林(律)委員】市役所の正面玄関に食育の旗があった。19日は食育の日ということだが、市では具体的にどのようなことに取り組んでいるのか。

【食育推進室長】19日には食育メールを出している。1～2日前には発信するようにしている。

【樋口委員】最近、高齢者の一人住まいや夫婦だけの世帯が多いが、そういう人たちは街へ買い物に行きにくくなる。三条市ではそのような方たちへ弁当や食材・献立を提供するような取組はあるのか。

【食育推進室長】高齢者向けの弁当を配達する取組はある。食材については御用聞き商店街を経済部で取り組んでいる。

【樋口委員】宅配弁当について、知らなかった。宣伝が足りないのではないか。どのようにPRしているのか。

【食育推進室長】宅配弁当については高齢介護課が担当しており、介護関係のケアマネジャーが判断しており、必要な方へ宅配している。

【経済部長】御用聞き商店街は、当初ネットを使って宅配の予定で、なかなか普及しないのが現実だった。今回はコンパクトストアとセットで買い物したものを届けることを行う。ボランティアでなく、商売として実施している。現在の計画では中央商店街が国の商業活性化計画をうけて、コンパクトストアを実施する計画をたて、事業を委託する形になる。また、食育を一般へ周知となると、商業ベースで動かないと実際できない。体にやさしい弁当などカロリー計算したものが売られる取組がないと、高齢者へのバランスのとれた食事は行政だけ、ボランティアだけではうまく進まない。商業ベースにのせたり、ソーシャルビジネスなどもあるので、生産者・栄養士・弁当屋・スーパーなどがビジネスとしてタイアップして高齢者の役にたつ事業ができると普及すると思う。中心市街地活性化の中で実現できればと考えている。

【樋口委員】九州で高齢者向けの弁当宅配を市がバックアップして安否確認も含めて、

200 円くらいの補助を出している市町村もあるようだが、三条はないのか。

【経済部長】御用聞き商店街の仕組みの中で、宅配の場合は料金上乗せで届けることになっている。そこに補助は入っていない。

【樋口委員】安否確認を含めて三条市も考えてもらいたい。

【経済部長】中心市街地の高齢化率が高いところは 40%を超えている。コミュニティビジネスが育っていかないと商業ベースだけではやりきれない。

【樋口委員】本当に食事に困っている人はたくさんいる。子どもも大事だが、高齢者への取組もお願いしたい。

【健康づくり課長】今ほど高齢介護課へ確認したが、弁当配達を週 1 回しており、70 歳以上の高齢者世帯を対象にしている。希望者については判定会を行って宅配する世帯を決定している。ご本人負担は 1 食 300 円。その中で安否確認をあわせて実施している。

【樋口委員】実際にかかっているのはいくらなのか

【健康づくり課長】そこまでは確認しておらず、申し訳ないが 300 円よりは多くなってくると思う。弁当の希望についてはケアマネージャーや地域包括センターからあがってくる状況になっている。

【姉齒会長】高齢者向けの弁当について地産地消率は出しているのか。

【健康づくり課長】そこまでは把握していない。

【姉齒会長】往々にして高齢者向けの弁当については中身が伴っていないものが多い。内容への配慮が少ない場合が多いといった話をよく聞く。

【食育推進室長】献立については、以前老人施設を担当していた栄養士へ引き継いでいるので内容については問題ない。食材については業者へ一任している状況。季節の食材を使った献立作成を心がけている。

【高野委員】病院にかからず、高齢者単独世帯でも元気に暮らしている方は大勢いるかと思うが、そのような方たちは民生委員などが把握しているのか。

【健康づくり課長】担当課は高齢介護課の範囲になるので必ずしも正確ではない部分もあるかと思うが、地域包括支援センターで把握している部分や、災害の要援護者リストで把握している部分がある。行政と地域が一体となった、高齢者にやさしいまちづくりが必要となってくる。

【姉齒会長】それでは、他に意見がないようでしたら、これを持ちまして平成 22 年度第 1 回三条市食育推進及び農業進行審議会を終了いたします。ありがとうございました。

午後 3 時 05 分終了